

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第 26 回）  
議事要旨

日 時 2014 年 1 月 9 日（木）10:00-12:00

場 所 日本学術会議 5-A(2)会議室（5 階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、長野幹事、西尾幹事、大隅委員（スカイプ参加）、岡田委員、田中委員、永原委員

陪 席 日本学術会議事務局（盛田参事官、辻上席学術調査員、太田参事官付）

配布資料

(1) 資料 1 第 25 回学術の大型研究計画検討分科会議事要旨（案）

1) 前回議事要旨（案）の確認

資料 1 をもとに本分科会の第 25 回の議事要旨（案）の確認を行い、一部の軽微な修正後に了承された。

2) マスタープラン 2014 に関する検討

本分科会から発出予定の提言「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2014）」について、前回の本委員会で決定した構成案に従い本日まで作成を行ってきた草稿をもとに審議を行った。その主な審議結果は以下の通りである。

- ・ 「提言」として発出する場合に、今回のマスタープラン 2014 に採択された大型研究計画の全容そのものが「提言」の内容であるという考えを基本としつつも、その大型研究計画一覧が我が国における科学技術・学術政策に有効に活かされていくことを望むメッセージを積極的に出していくこととした。
- ・ 本提言の「要旨」の記述が非常に重要であることに鑑み、想定している項目立てを再考することとした。まず、マスタープラン 2014 の策定に関する「背景と目的」を記し、その次に策定の「方針」を記し、最後に提言の「内容」を記すような項目立てにすることとした。そのような項目立てのもとで、草稿の「要旨」の記述を大幅に見直すこととした。
- ・ 本提言の「本文」の「背景と目的」部分におけるマスタープラン 2010 及びマスタープラン 2011 に関する記述については、これら二つのマスタープランが本分科会のもとで策定されている経緯を踏まえて、それらの意義を強調すること、また、科学者コミュニティから高い評価を得ていることなどを明記することとした。
- ・ 今回のマスタープラン 2014 に採択された大型研究計画の全容そのものが「提言」の内容であるという考えを基本とする観点からは、学術大型研究計画、重点大型研究計画の策定に関する部分の題目としては、「提言：学術大型研究計画」、「提言：重点大型研究計画」とすることとした。
- ・ 本提言の「本文」の本提言の「背景と目的」部分とマスタープラン 2014 の「策定プロセス」部分に記述の重なりがあるので、その再調整を行うこととした。
- ・ 学術大型研究計画及び重点大型研究計画の「策定プロセスと意義」を記載するそれぞれの節では、「意義」について記載した後に「策定プロセス」を記載することとした。

- 学術大型研究計画、重点大型研究計画の一覧に関しては、項目の順番をその重要度を考慮して入れ替えること、また、エクセルファイルの各枠内の記述形式に関する改善を行うこととした。計画の掲載順番に関しては、草稿において、同一の研究領域番号をもつ計画が複数ある場合に公募申請順となっているか、事務局が確認することとなった。なお重点大型研究計画の一覧は、読者の利便性を考慮して、学術大型研究計画の一覧から該当計画を抜粋し、再掲して示すこととした。
- 学術研究領域の一覧に関して、例えば、総合工学委員会の「計算科学」領域の小領域に「計算科学」が設定されているなどの問題があるが、この一覧が既に公表されていることなどに鑑み、このままで「提言」に掲載することとした。
- マスタープラン 2014 の英語版を作成することとした。

### 3) その他

次回の本分科会の開催日予定などについての連絡があった。

以上